

身体障害者診断書・意見書（肢体不自由用）

総括表

氏 名	年 月 日生（ ）歳	男・女												
住 所														
① 障害名（部位を明記）														
② 原因となつた 疾病・外傷名														
交通 労災 その他の事故 戦傷 戦災 自然災害 疾病 先天性 その他（ ）														
③ 疾病・外傷発生日 年 月 日・場所														
④ 参考となる経過・現症（エックス線写真及び検査所見を含む。）														
障害固定又は障害確定（推定） 年 月 日														
⑤ 総合所見														
〔将来再認定 要・不要〕 (再認定の時期 年 月)														
⑥ その他参考となる合併症状														
上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。														
年 月 日														
病院又は診療所の名称 所 在 地 担当診療科名 科 医師氏名 ㊦														
身体障害者福祉法第15条第3項の意見〔障害程度等級についても参考意見を記入〕 等級表による個別等級														
障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に ・該当する（ 級相当） ・該当しない	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">部 位</th> <th style="width:20%;">等 級</th> <th style="width:60%;">項 目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上 肢</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下 肢</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>体 幹</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		部 位	等 級	項 目	上 肢			下 肢			体 幹		
部 位	等 級	項 目												
上 肢														
下 肢														
体 幹														
注														
1 障害名には、現在起こっている障害、例えば右上下肢麻痺等を記入し、原因となつた疾病には、脳卒中等原因となつた疾患名を記入してください。 2 「障害の状態及び所見を記載した書面」（別様式）を添付してください。 3 障害区分や等級決定のため、地方社会福祉審議会から改めて問い合わせする場合があります。														

動作・活動

自立－○ 半介助－△ 全介助又は不能－× () 中のものを使う時にはそれに○

寝返りをする		シャツを着て脱ぐ	
		ワイシャツのボタンを留める	
あしを投げ出して座る (背もたれ)		ズボンを履いて脱ぐ (自助具)	
椅子に腰掛ける (背もたれ)		ブラッシで歯を磨く (自助具)	右
			左
立ち上がる (手すり・壁・杖・装具)		顔を洗いタオルで拭く	
立つ (手すり・壁・杖・松葉杖・義肢・装具)	両方	タオルを絞る	
	右		
	左		
家の中の移動 (壁・杖・松葉杖・義肢・装具・車椅子)		とじひもを結ぶ	
		背中を洗う	
洋式便器に座る		二階まで階段を上って下りる (手すり・杖・松葉杖)	
排泄の後始末をする			
(はしで) 食事をする (スプーン・自助具)	右	屋外を移動する (家の周辺程度) (杖・松葉杖・車椅子)	
	左		
コップで水を飲む	右	公共の乗物を利用する	
	左		

注 身体障害者福祉法の等級は機能障害 (impairment) のレベルで認定されますので、() の中に○がついている場合、原則として自立していないという解釈になります。

◎ 上肢の状態、歩行能力及び起立位の状況

(補装具を使用しない状態で該当するものを○で囲む)

- (1) 上肢で下げられる重さ [右] : 正常 ・ (10kg ・ 5kg) 以内可能 ・ 不能
[左] : 正常 ・ (10kg ・ 5kg) 以内可能 ・ 不能
- (2) 歩行できる距離 正常 ・ (2km ・ 1km ・ 100m ・ 10m) 以上困難 ・ 不能
- (3) 起立位保持 正常 ・ (1時間 ・ 30分間 ・ 10分) 以上困難 ・ 不能
- (4) 片脚起立 [右] : 可 ・ 不安定 ・ 不可 [左] : 可 ・ 不安定 ・ 不可

関節可動域(ROM)と筋力テスト(MMT) (この表は必要な部分を記入)

筋力テスト()	関節可動域	筋力テスト()	筋力テスト()	関節可動域	筋力テスト()
()前屈	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	後屈()	頸	()左屈	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180
()前屈		後屈()	体幹	()左屈	
右	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	伸展()	()伸展	()伸展	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180
()屈曲		内転()	肩	()内転	
()外転		内旋()	()内旋	()内旋	
()外旋		伸展()	肘	()伸展	
()屈曲		回内()	前腕	()回内	
()回外		背屈()	手	()背屈	
()掌屈		伸展()	()伸展	母	
()屈曲		伸展()	(M) 中指節	示	
()屈曲		伸展()	(P) 中指節	中	
()屈曲		伸展()	(P) 中指節	環	
()屈曲		伸展()	(P) 中指節	小	
()屈曲		伸展()	(PIP) 近位指節	母	
()屈曲		伸展()	(PIP) 近位指節	示	
()屈曲		伸展()	(PIP) 近位指節	中	
()屈曲		伸展()	(PIP) 近位指節	環	
()屈曲		伸展()	(PIP) 近位指節	小	
180 150 120 90 60 30 0 30 60 90		伸展()	()伸展	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	
()屈曲		内転()	股	()内転	
()外転		内旋()	()内旋	()内旋	
()外旋		伸展()	膝	()伸展	
()屈曲		背屈()	足	()背屈	
()底屈					

備考

※ 注

1. 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
2. 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
3. 関節可動域の図示は | ←→| ように両端に太線を引き、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に () を引く。
4. 筋力については、表()内に×△○印を記入する。

×印は、筋力が消失又は著減(筋力0,1,2該当)

△印は、筋力半減(筋力3該当)


○印は、筋力正常又はやや減(筋力4,5該当)

5. (PIP)の項で母指は(IP)関節を指す。

6. DIPその他対立内外転等の表示は必要に応じ備考欄を用いる。

7. 図中塗りつぶした部分は参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。

例示

(×)伸展  (△)屈曲